

国際マネーフローレポート(2009年2月公表の各種統計と金融市場の動き)

2008年の海外投資家による対米証券投資

<目次>

- . 今月のトピックス
 - ・ 2008年の海外投資家による対米証券投資
- . 国際金融市場、国際マネーフローの動向
- 1. 主要先進国の金利と為替相場
 - 政策金利 長期金利 金利差と為替相場
 - 実質実効為替相場 株価、実質GDP成長率、インフレ率
- 2. 世界の流動性
 - 世界の外貨準備 世界の通貨当局の米国債・政府機関債投資残高
 - 主要先進国合計のマネーサプライ
- 3. 中国とロシアの貿易収支
 - 中国の貿易黒字 ロシアの貿易黒字
- 4. オフバランス取引での円ポジション
 - シカゴ通貨先物市場での投機筋による円のネットポジション
 - 外国為替証拠金取引のネットポジション
- 5. 日本をとりまく資本移動
 - 対外証券投資 対内証券投資
- 6. 米国をとりまく証券投資
 - 海外資本による対米証券投資 海外資本の米国債保有残高
- 7. 世界的不均衡
 - 米国の経常収支赤字 米国の貿易赤字 ドル相場
- 8. アジアの株価・為替相場
 - 株価 為替相場



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

調査部

【お問い合わせ先】 塚田裕昭 (htsukada@murc.jp)

． 今月のトピックス ～ 2008 年の海外投資家による対米証券投資

2月17日に米財務省が発表した「国際資本統計（TIC DATA）」によると、2008年12月の海外投資家による長期の対米証券投資は224億ドルの買い越しとなり、3ヶ月振りにネットで資金流入となった（図-1）。11月に売り越しとなった米国債が再び買い越しに転じ、米政府機関債が引き続き売り越された（図-2）。

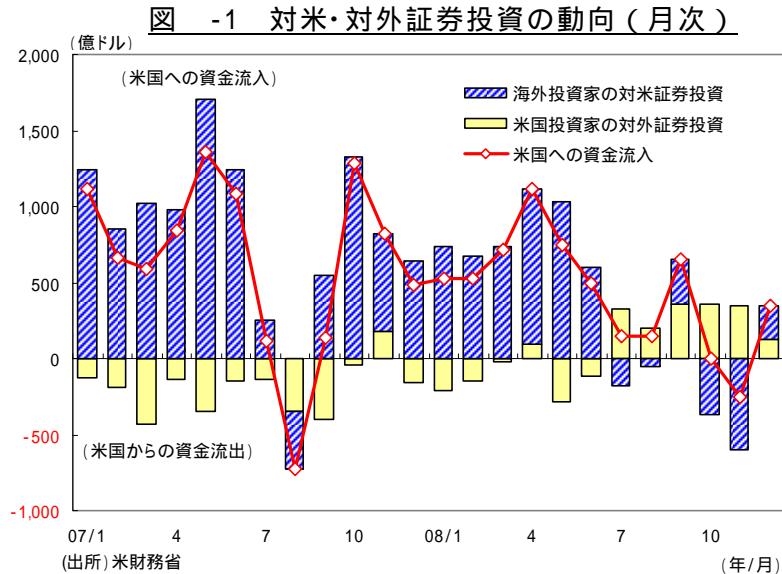
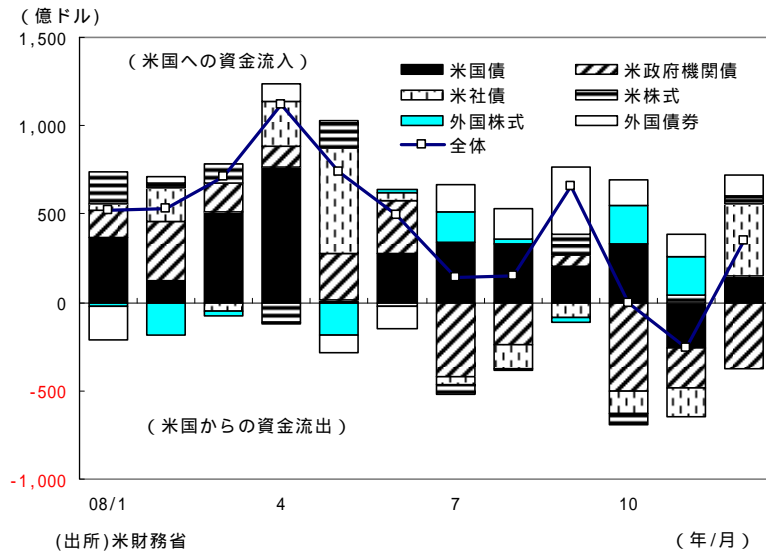


図 -2 対米・対外証券投資の動向（証券種類別、月次）

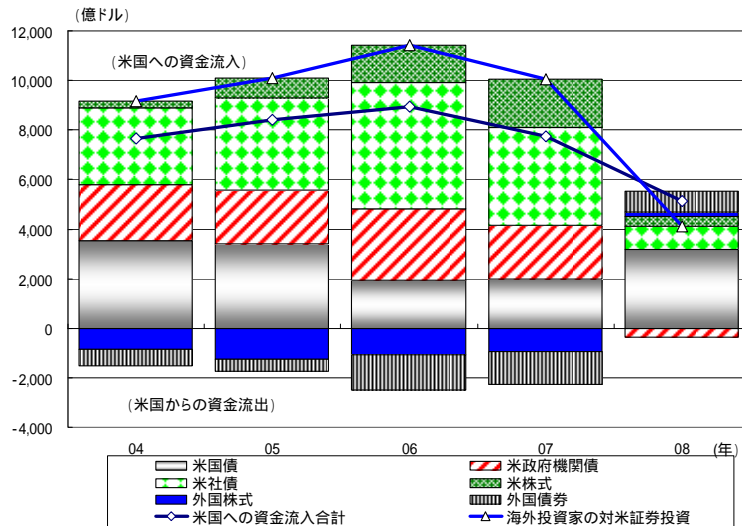


海外投資家による対米証券投資の動向を見ると、2007年を通じてネットで1兆58億ドルの買い越し（米国への資金流入）であったのに対し、2008年は4,125億ドルの買い越しと米国への資金流入額が大幅に減少した（図-3）。

海外投資家の対米証券投資に米国投資家の対外証券投資を加えたトータルでの米国への資金流入をみても、2007年の7,766億ドルの流入に対し、2008年は5,146億ドルと大

幅に減少している（図 -3）。米国投資家は2007年まで対外（米国外）証券への投資を進めて資金を海外に流出させてきたが、2008年には金融市場の混乱による資金逼迫への対処などから外国証券を売却して資金を米国内に還流させる動き（リパトリ）が強まり、6年ぶりの資金流入となった。しかしながら、リパトリによる資金流入は海外勢による資金流入の減少に比べれば小さなものであり、トータルでの資金流入は大幅減となった。

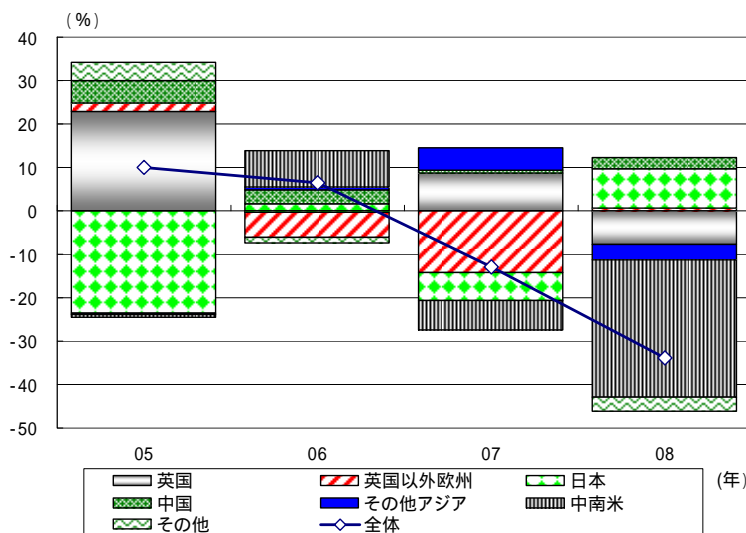
図 -3 対米・対外証券投資の動向（年次）



証券種類別の内訳では、これまで海外からの買い越し（資金流入）が続いていた米政府機関債が売り越しに転じたこと、米国の株式や社債など各種証券の買い越し幅が縮小した一方で米国債の買い越し幅が増大したことが2008年の特徴としてあげられる。

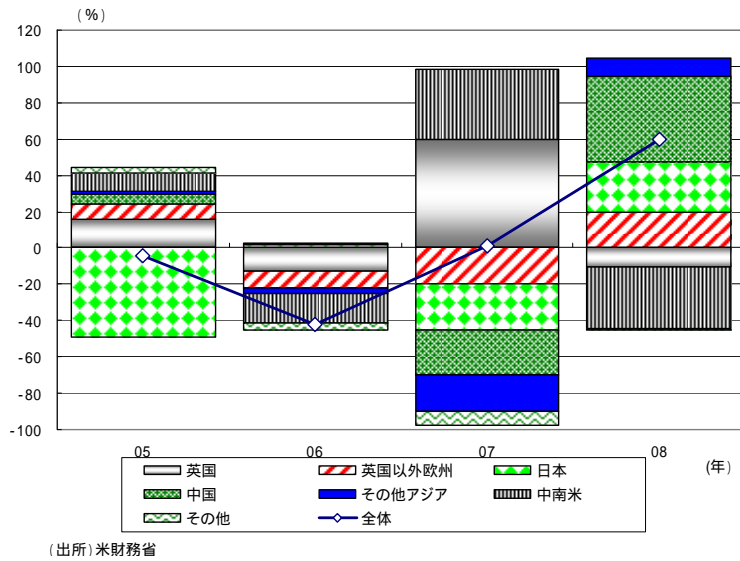
また、対米証券投資の動向を地域別に見ると、カリブ海周辺のオフショア市場を擁する中南米、多額のオイルマネーが経由すると言われる英国が前年比で大きくマイナスに寄与している一方で、中国、日本がプラスに寄与している（図 -4）。米国債投資の増加分の寄与度をみても、中国、日本の寄与が大きい（図 -5）。

図 -4 対米・対外証券投資前年比の地域別寄与度



（出所）米財務省

図 -5 米国債投資前年比の地域別寄与度



米財務省は、2月27日に海外勢の米国債投資残高明細の修正値を公表したが、これによると英国の保有残高が大幅に下方修正された一方で、日本、中国の保有残高が上方修正された(図 -6)。特に、海外勢が保有する米国債総額に占める中国の割合は年々増加しており、プレゼンスが高まっている(図 -7)。

図 -6 主要国の米国債投資残高

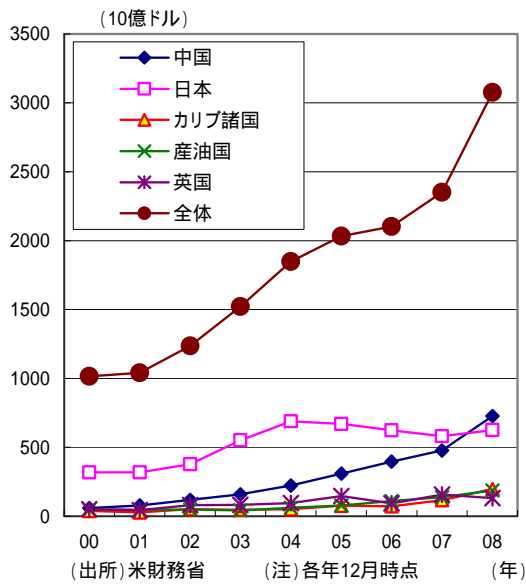
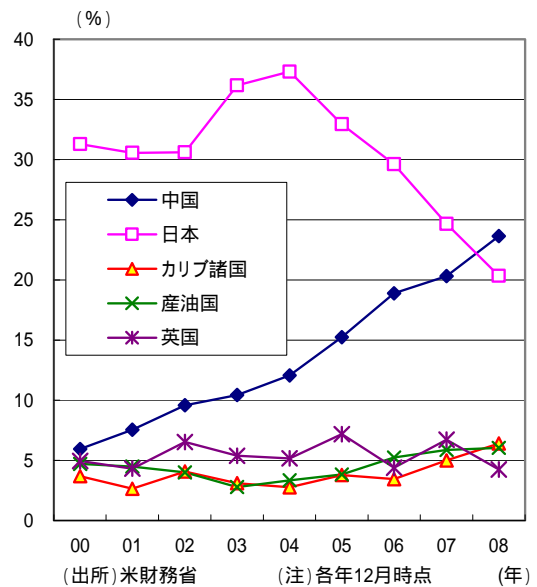


図 -7 主要国の米国債投資シェア



・ 国際金融市場、国際マネーフローの動向

1. 主要先進国の金利と為替相場～BOEが2月に政策金利を引き下げ

政策金利

ユーロ圏

- ・ ECB (欧州中央銀行) は2月5日の理事会で、政策金利を2.00%に据え置いた(図 -1)。

英国

- ・ BOE (英国中央銀行) は2月5日のMPC会合で、政策金利を0.5%引き下げ1.0%にすることを決定した(図 -1)。

米国

- ・ FRB (連邦準備制度理事会) は1月28日の定例FOMCで、FFレートの誘導目標を0～0.25%に据え置くことを決定した(図 -1)。

日本

- ・ 日本銀行は2月19日に開催した金融政策決定会合で、無担保コール翌日物金利(誘導目標)を0.1%に、基準貸付利率を0.3%に据え置いた(図 -1)。

長期金利(国債10年物利回り)

- ・ 1月の米国の長期金利は、国債増発による需給悪化懸念からの上昇、景気悪化懸念からの低下と一進一退で推移したが、月末には3%台まで上昇した。他の主要国の長期金利も日本を除きほぼ同様の動きとなった。日本の長期金利はほぼ横ばいで推移した(図 -2)。

図 -1 政策金利

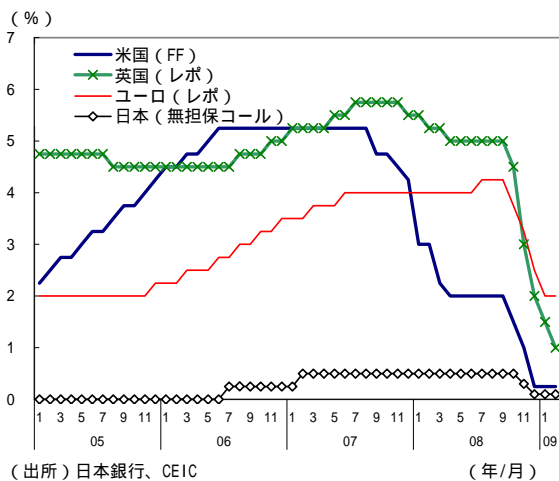
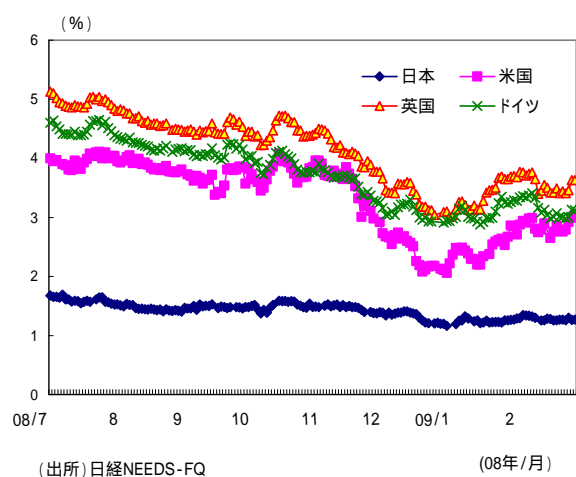


図 -2 長期金利(国債10年物)



金利（3ヶ月物）差と為替相場

日本と米国

- ・ 2月の日米の金利（3ヶ月物）はともに小幅上昇したが、上昇幅は日本が大きく金利差は縮小した（図 -3）。
- ・ 2月のドル円相場は円安基調で推移した。

日本とユーロ圏

- ・ 2月は、ユーロ圏の金利が低下する一方で日本の金利が上昇して、日-ユーロの金利差は縮小した（図 -4）。
- ・ 2月のユーロ円相場は、円安基調で推移した。

日本と英国

- ・ 英政策金利引下げにより、2月の英国の金利は低下した。日本の金利は上昇したため、金利差は縮小した（図 -5）。
- ・ 2月のポンド円相場は円安が進展した。

実質実効為替相場

- ・ 1月の実質実効為替相場は、ドル、円、ポンドが低下する一方で、ユーロが上昇した（図 -6）。

図 -3 日-米金利差とドル円相場

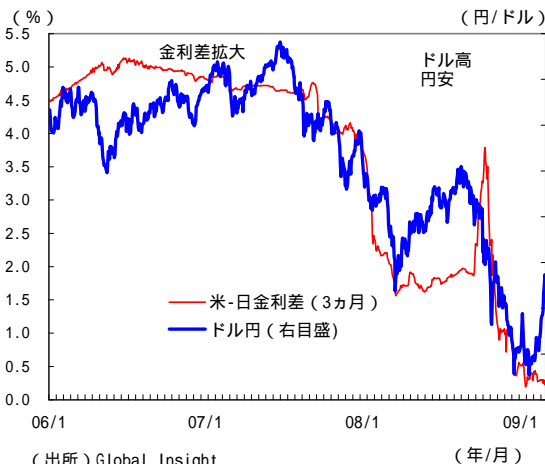


図 -4 日-ユーロ圏金利差とユーロ円相場

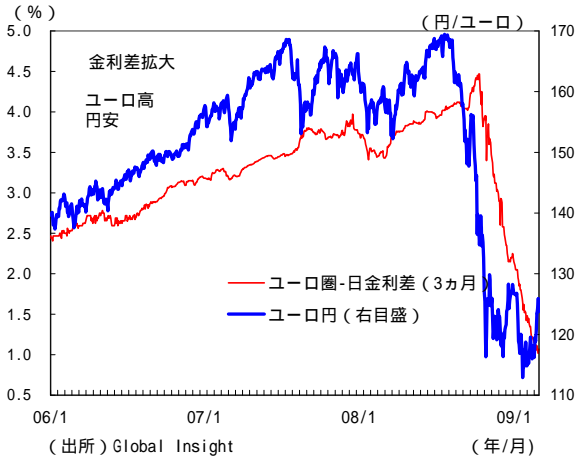


図 -5 日-英金利差とポンド円相場

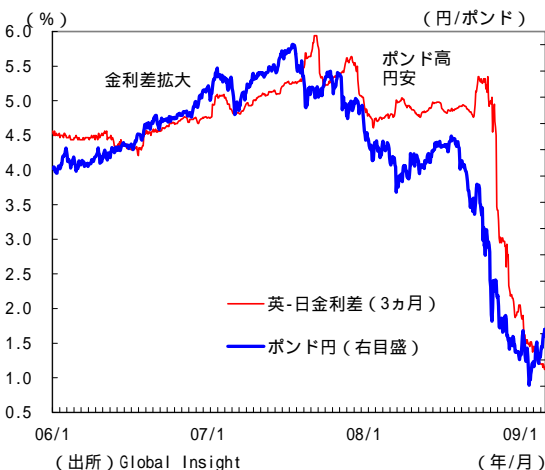
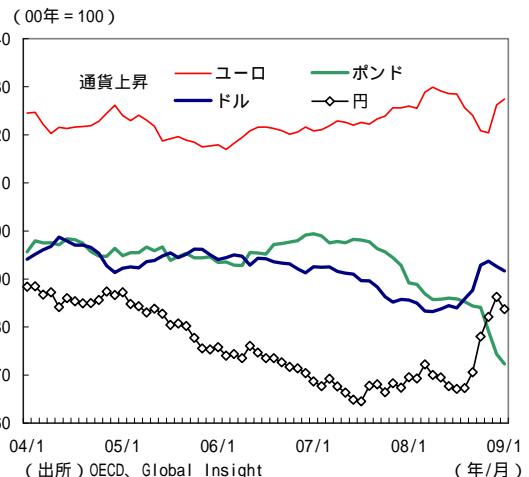


図 -6 実質実効為替相場



金利やマネーの動きを左右する株価、景気、インフレ率

【株価】

- ・ 2月の主要国の株価は、景気悪化への懸念から軟調に推移した（図 -7）。

【実質 GDP 成長率】

- ・ 2008年10-12月期の実質 GDP 成長率は前期比年率で見て、米、日、英、ユーロいずれもマイナスとなった。米は2四半期連続、日、英、ユーロは3四半期連続のマイナスである（図 -8）。

【消費者物価上昇率】

- ・ 1月の米国消費者物価（総合）は、前年比+0.0%となった。食料エネルギーを除くコアは前年比+1.7%と上昇幅が縮小した。
- ・ 1月のユーロ圏のCPIは前年比+1.1%（コアは+1.6%）と上昇幅が縮小した（コアも縮小）。
- ・ 1月の英国のCPIは、前年比+3.0%と上昇幅が縮小したが、コアは+1.3%と上昇幅が拡大した。

【原油価格】

- ・ 2月の原油相場（WTI、期近物）は、需要の減少観測から中旬にかけて下落したがその後反発し、月末には45ドル台まで上昇した（図 -10）。

図 -7 株価

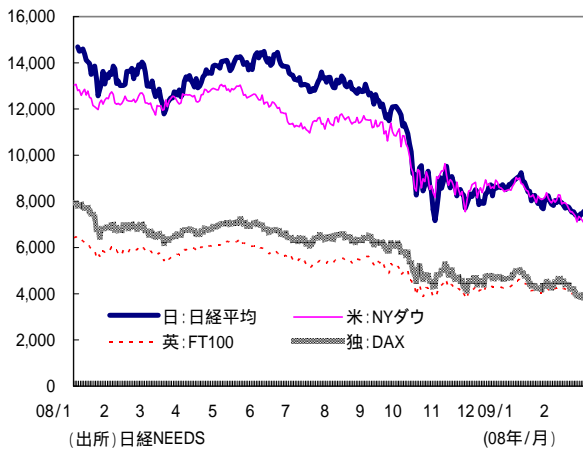


図 -9 消費者物価上昇率

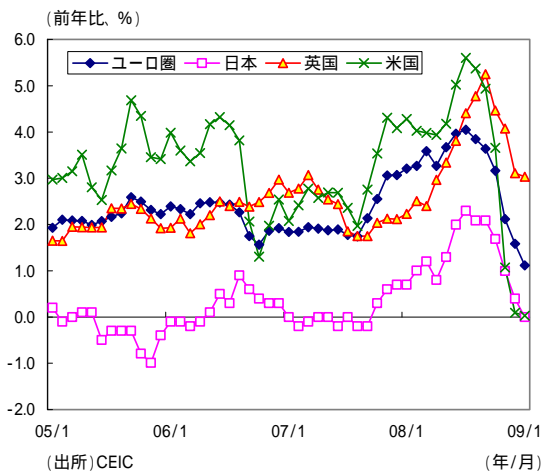


図 -8 実質 GDP 成長率

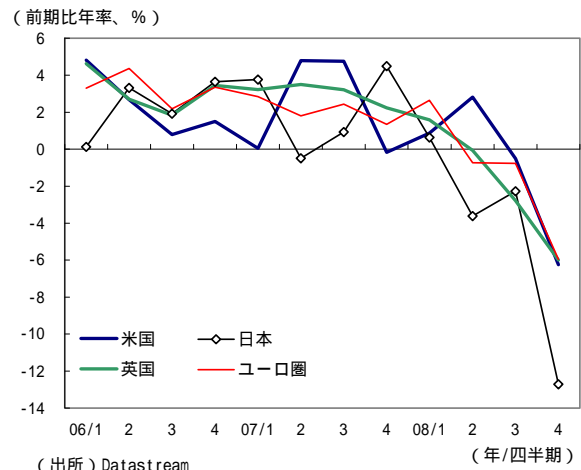


図 -10 原油価格 (WTI)



2. 世界の流動性～海外通貨当局の米債投資の伸びは高水準が続く

世界の外貨準備（通貨当局が保有する対外資産）

- ・ 世界の外貨準備は、前年比で 2 桁の伸びを続けているが、このところ伸び率は低下してきている（図 -11）。
- ・ 地域別にみると、中国は前年比 20% 超の増加となっているが、伸び率は縮小してきている。ロシア、韓国はこのところ減少している（図 -11,12）。

世界の通貨当局の米国債・政府機関債投資残高

- ・ 世界の通貨当局による米国債・政府機関債投資残高（FRB カストディ残高）は、前年比 2 桁増の高い伸びを維持している。（図 -13）。

主要先進国合計のマネーストック

- ・ 1 月の EU のマネーストック前年比は、+5.9% と 12 月の +7.5% に比べ減少した（図 -14）。EU のマネーストックはこのところ、伸び率の減少が続いている。

図 -11 世界の外貨準備（伸び）

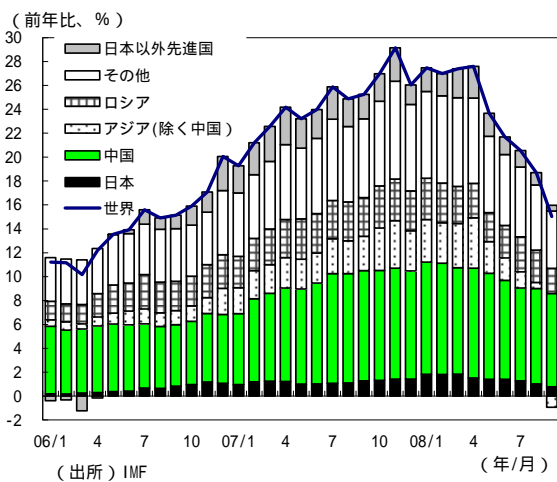


図 -12 主な国の外貨準備（水準）

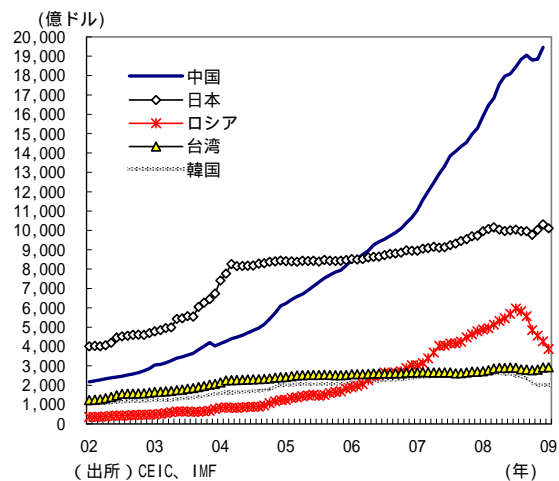


図 -13 通貨当局の対米投資と米国金利

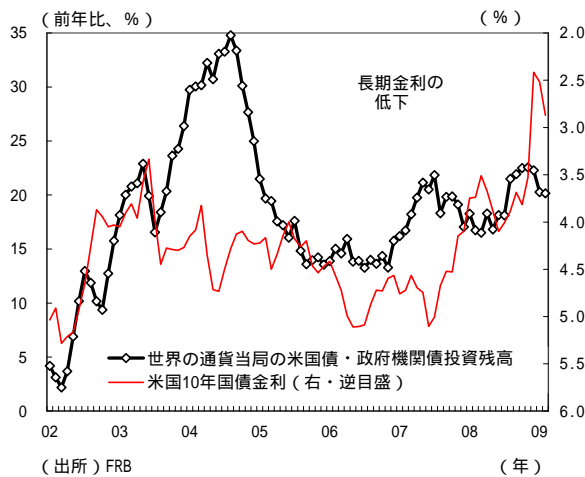
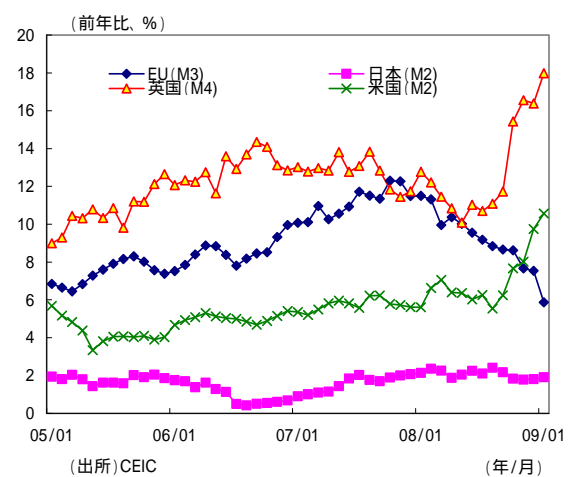


図 -14 先進国のマネーストックの伸び



3. 中国とロシアの貿易収支～ロシアの貿易黒字は減少

- ・ 1月の中国の貿易黒字は、前年比で+101.5%の大幅な増加となった(図-15)。
- ・ 1月のロシアの貿易黒字は、前年比で-47.5%減と大幅に減少した。

4. オフバランス取引での円ポジション～東京での円ポジションは売り超にシカゴ通貨先物市場での投機筋(非商業目的)による円のネットポジション

- ・ シカゴ市場での円のネットポジションは2月も円が買われ、買い超が続いた(図-16)。

外国為替証拠金取引のネット円売りポジション

- ・ 東京でのネット円売りポジションは、ドル、ユーロ、ポンドに対して円が売られたため、2月下旬にはトータルでも売り超となった(図-17,18)。

図-15 中国・ロシアの貿易収支

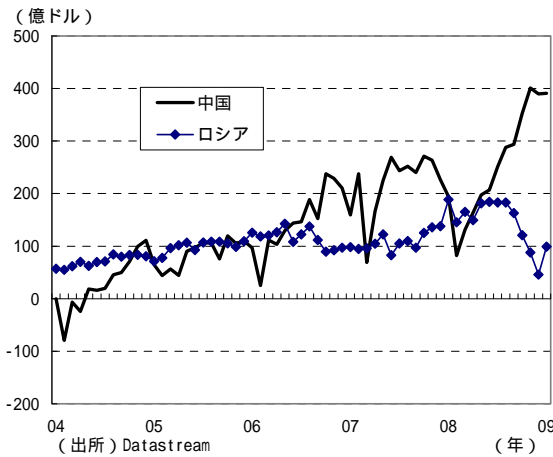


図-16 シカゴ先物市場とドル円相場

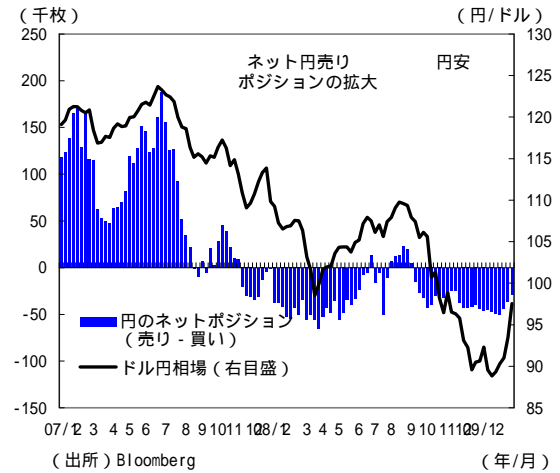


図-17 為替証拠金取引のネット円売りポジション

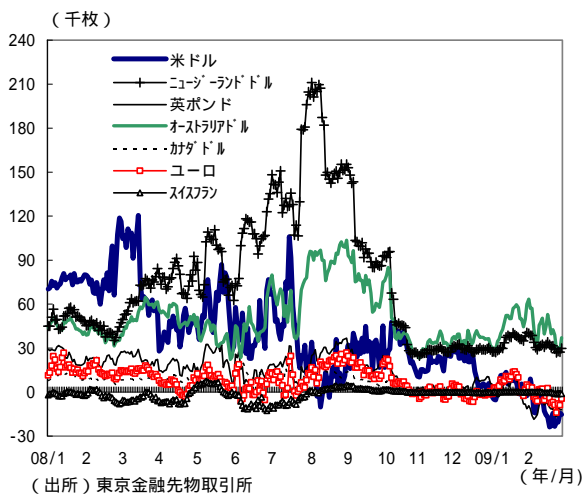
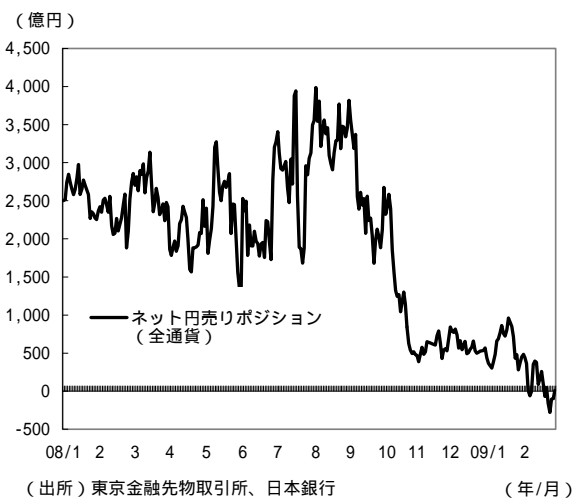


図-18 円売りポジション(全通貨計)



5. 日本をとりまく資本移動～1月の対外証券投資は流出超過

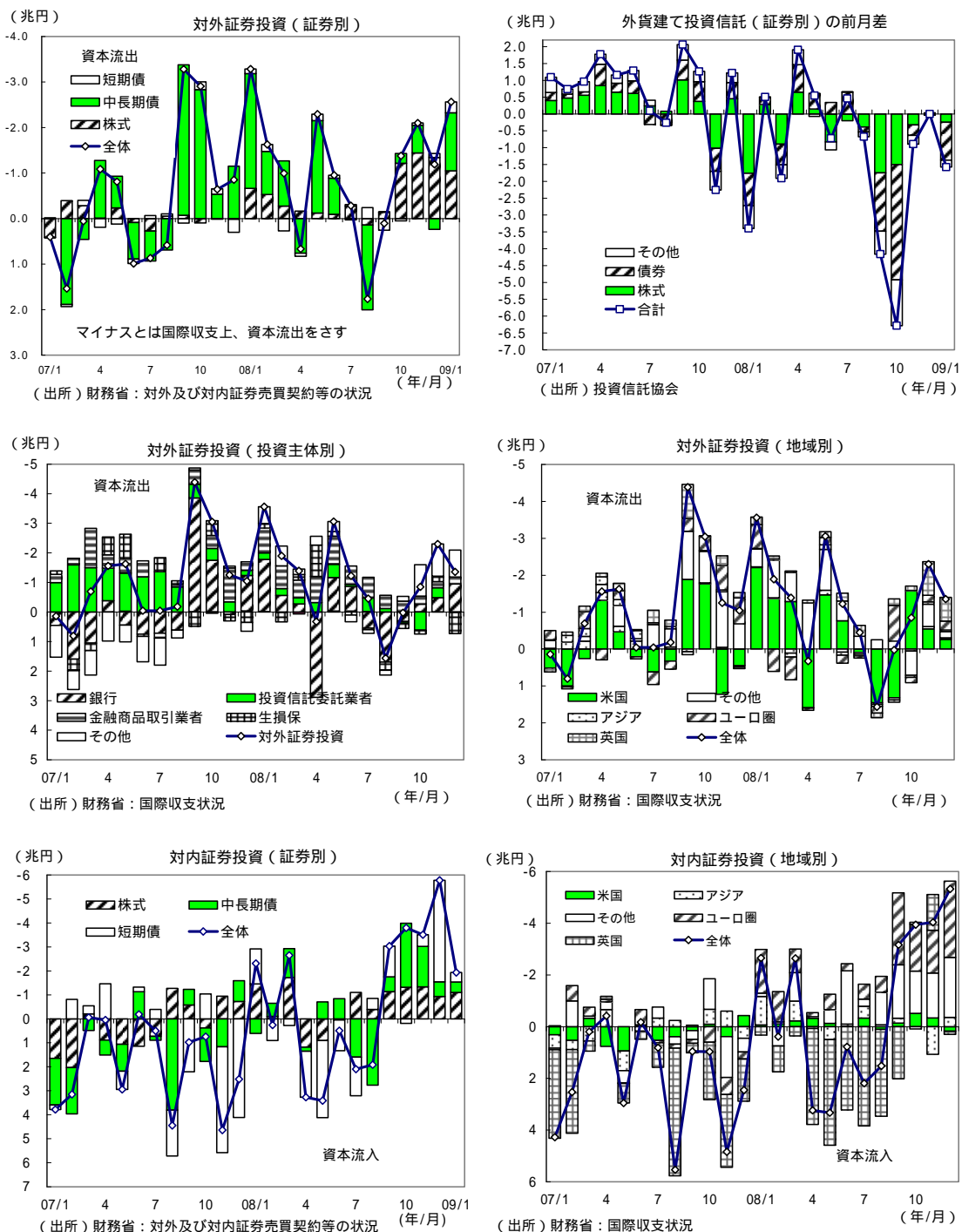
日本の対外証券投資（日本人投資家の海外資産への投資）

- ・ 1月は2兆5,632億円の流出超過（買い越し）となった。中長期債、株式、短期債いずれも流出超過（買い越し）であった。
- ・ 1月の外貨建て投資信託残高は、主に債券型の投信が売られたことにより前月に比べ1兆5,726億円減少した。

日本への対内証券投資（外国人投資家による対日証券投資）

- ・ 1月は1兆9,343億円の流出超過（売り越し）となった。株式、中長期債、短期債ともに売り越しであった。

図 -19 日本をとりまく証券投資



6. 米国をとりまく証券投資～海外資本による対米証券投資は流入超過

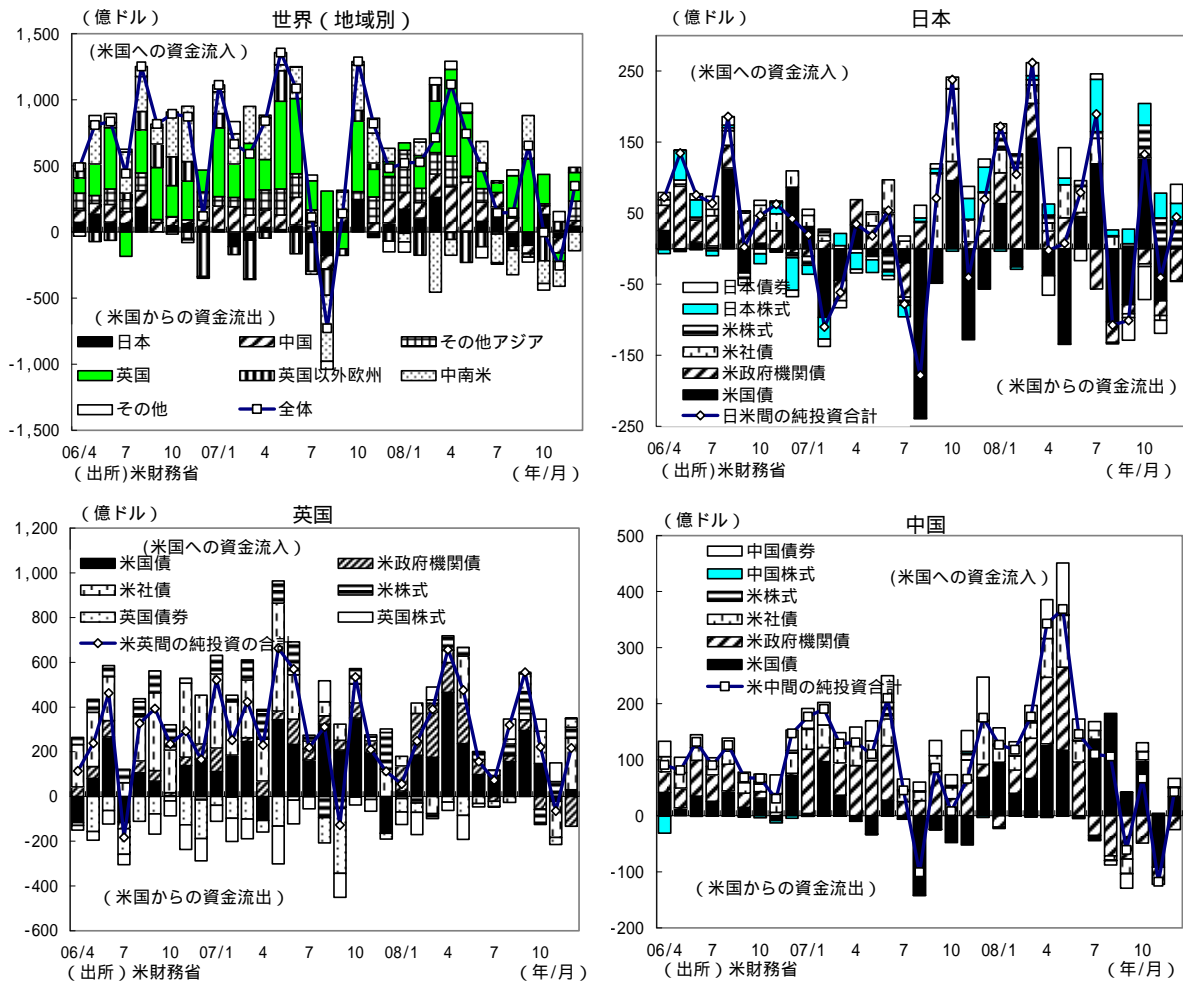
海外資本による対米証券投資

- ・ 12月の海外資本による対米証券投資は、ネットで224億ドルの買い越しとなり、3ヶ月ぶりに米国への資金流入となった。
- ・ 海外資本を地域別にみると、中南米が引き続き米国から資金を流出させている。

海外資本の米国債保有残高（ストック）

- ・ 12月は3兆769億ドルと前月比で増加した。
- ・ ストック残高を国別にみると、大きい順に、中国7,274億ドル、日本6,260億ドル、カリブ諸国1,975億ドル、石油輸出国1,862億ドル、英国1,309億ドルであり、中国の保有残高の拡大が続いている。

図 -20 対米・対外証券投資の動向



7. 世界的不均衡～米国の経常赤字(7-9月期)は前期比で縮小

米国の経常収支赤字（グローバルインバランス）

- ・ 2008年7-9月期の経常赤字は1,741億ドル（年率6,964億ドル、GDP比4.8%）と前期に比べて縮小した（図-21）。

米国の貿易赤字（国際収支・財サービスベース）

- ・ 2008年12月の貿易赤字は、399億ドル（季節調整値）と前月に比べ縮小した（図-22）。
- ・ 最大の赤字相手国である中国向けの貿易赤字は199億ドルで、前月に比べ縮小した。

図-21 米国の経常収支

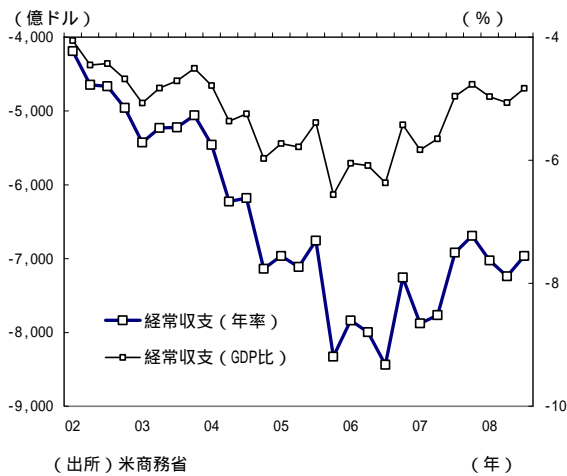
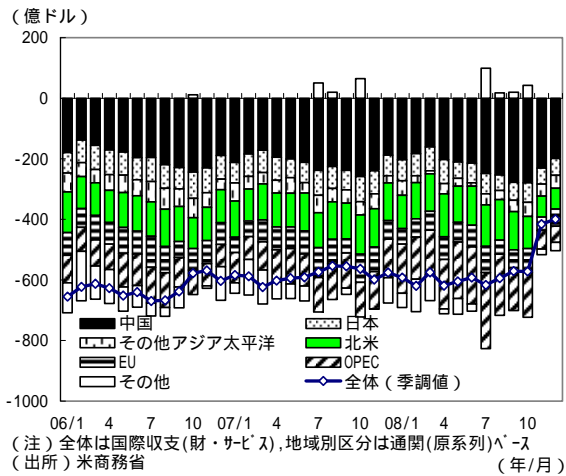


図-22 米国の貿易収支



ドル相場

- ・ 2月のドル相場は、対主要国（対円を除く）でドル高基調で推移した（図-24）。

図-23 ドル相場（名目、月次）

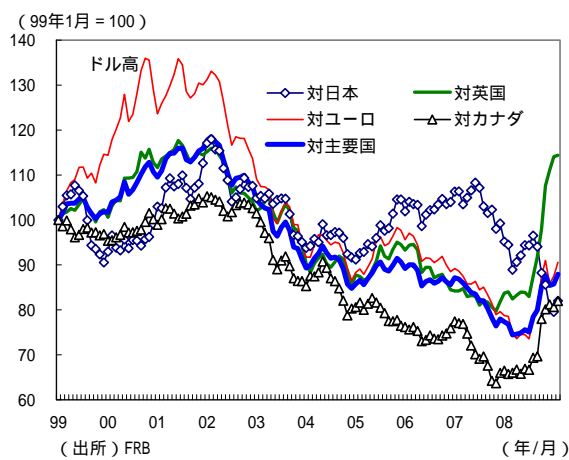
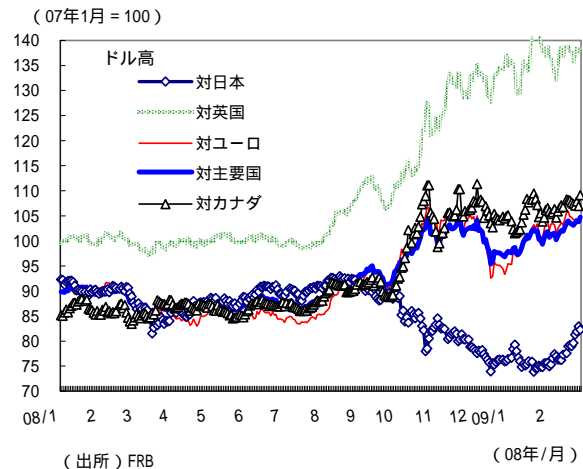


図-24 ドル相場（名目、日次）



8. アジアの株価・為替相場～アジア株は総じて軟調に推移

アジア主要国の株価

- ・ 2月のアジア株は、総じて軟調に推移した（図 -25）。

アジア主要国の為替相場

- ・ 2月のアジア通貨は総じてドルに対して通貨安の方向で推移した（図 -26）。

図 -25 アジアの株価

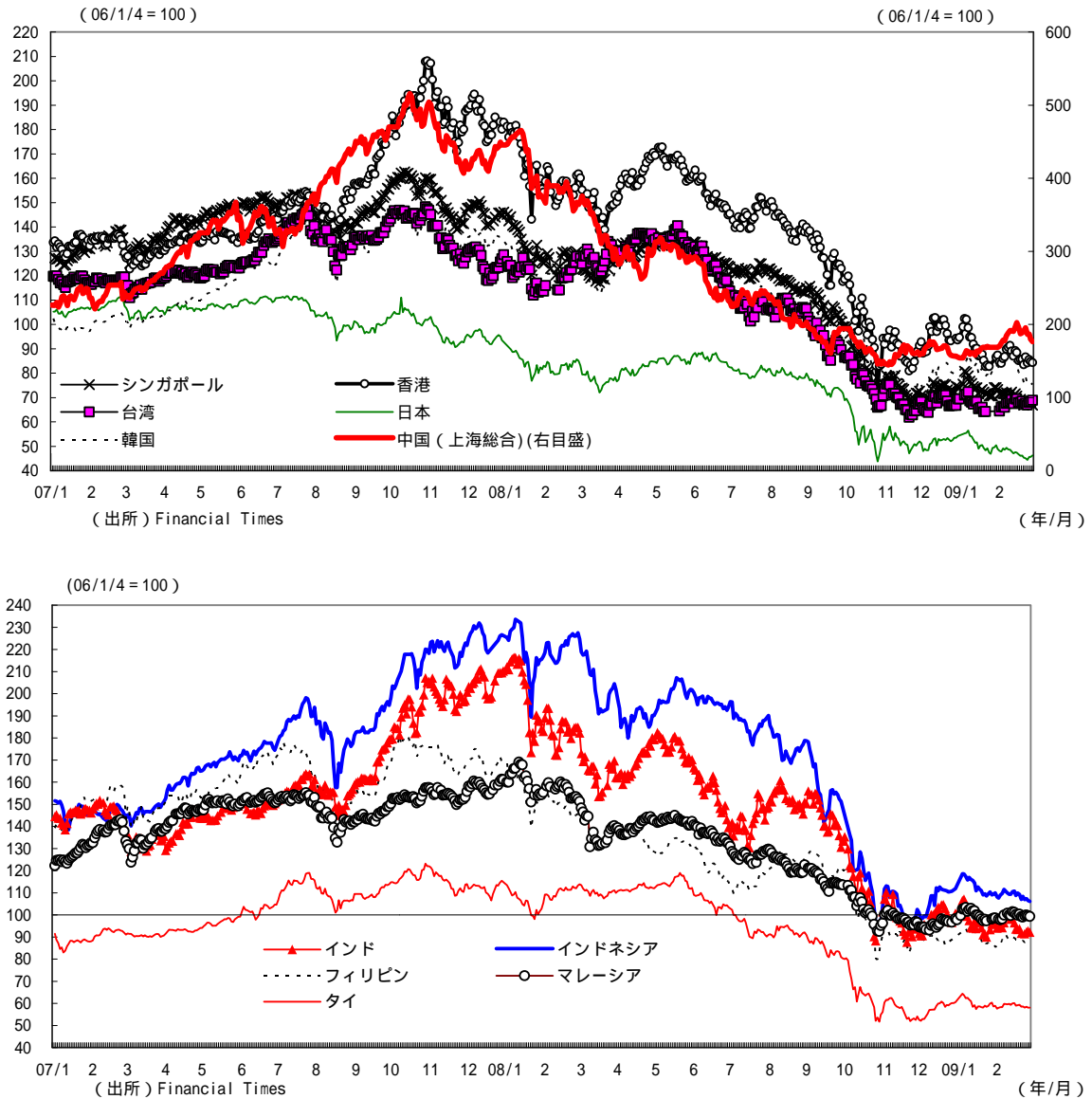
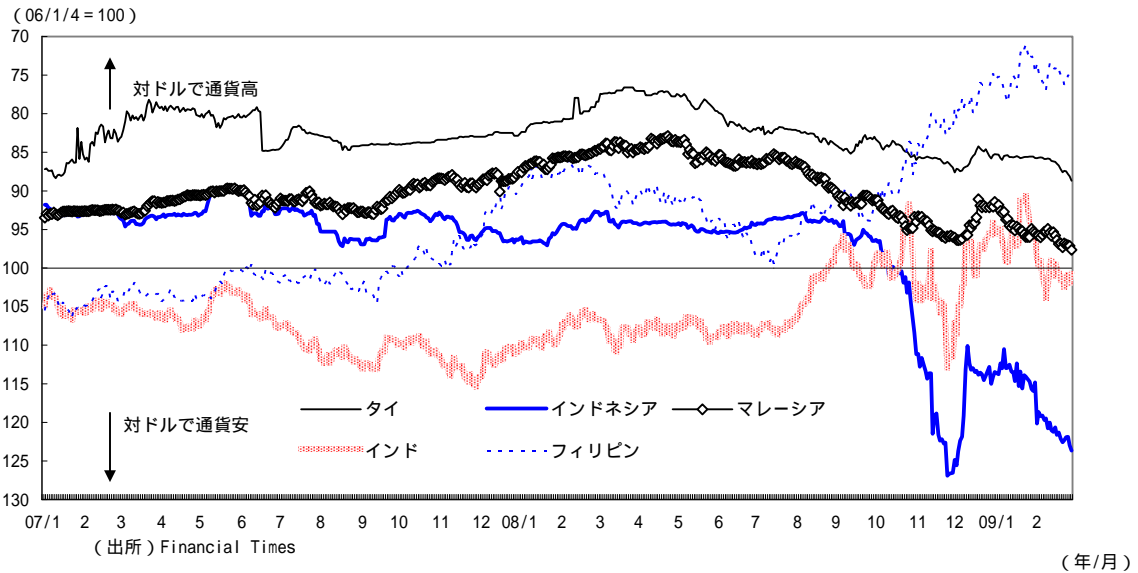
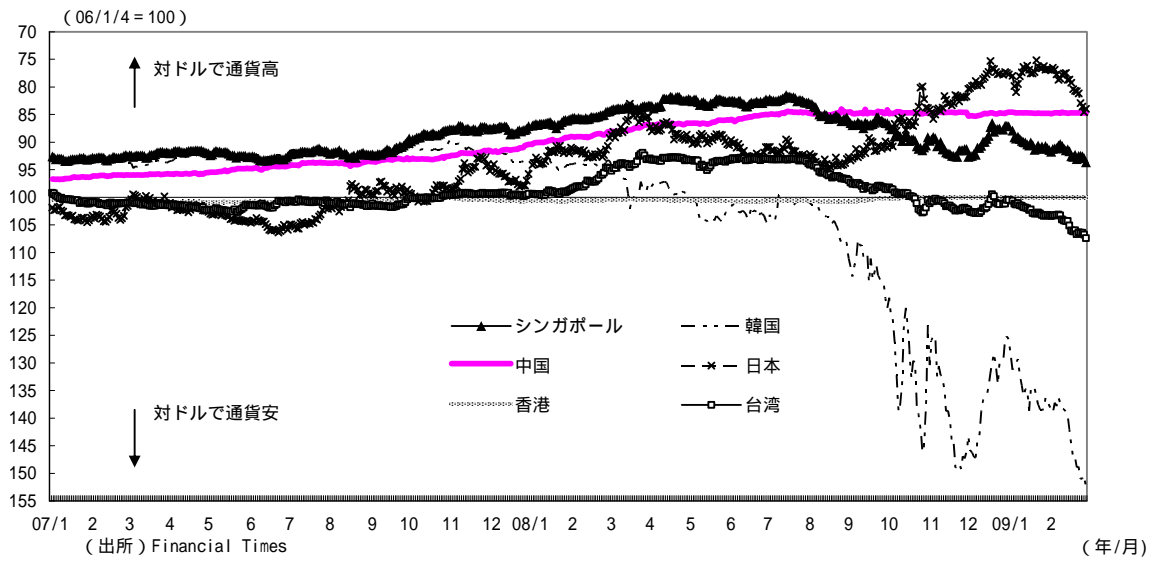


図 -26 アジアの為替



当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませ、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、弊社はその正確性を保証するものではありません。また執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一的な見解ではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。当資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されております。全文または一部を転載する際は出所を明記して下さい。